

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400044		
法人名	医療法人社団健祉会		
事業所名	アポロン伊太		
所在地	静岡県島田市伊太2170-1		
自己評価作成日	平成31年1月23日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2295400044-00&amp;PrefC">www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2295400044-00&amp;PrefC</a>
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年2月13日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・調理、洗濯たみ、部屋の掃除など家事を一緒に行うことで、家庭的な雰囲気を楽しんでいます。  
 ・足腰の筋力低下防止のため、毎日歌に合わせて運動をしたり、施設の外(ベランダ)に散歩にいき、健康・体力維持に努めている。  
 ・季節感のあるレクリエーションの提供。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「やすらぎとぬくもりが伝わる心のもった介護を」と、「生きがいと」と「心の安らぎ」が持てるように支援している。一人でも多くの事ができる利用者があるため、個別支援ができるように表を作成して、お皿洗いやぬかみそ漬、梅ジュースを作ってもらっている。2階事業所には広いベランダがあり、毎日午前と午後の2回ベランダの散歩と体操を行っている。ベランダからは事業所横の小川や田畑が見渡すことができ、近所の方や幼稚園児が手を振って挨拶してくれる。管理者や職員はもっと近隣に散歩に行きたいとの思いがあり、天気の良くなる季節を心待ちにしていた。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し共有・実践につなげている。グループホームで年間目標を立て年度ごとに評価を行っている。	「一人ひとりの生活を笑顔で支える」を目標に個別支援に力を入れている。今年度個人目標は立てていないが、会議の度に振り返りを行い、実践に繋がられているか評価を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕涼み会、ボランティアの受け入れ、散歩時などに挨拶や会話をしている。地域のお祭りで屋台が来てくださりお囃子などを演じてくれる。	夏祭りやボランティア受け入れなど、地域との交流を深めている。散歩時には地域の方との挨拶を欠かさず行き、顔の見える関係を作っている。広報誌を3か月に1回発行しており、回覧板で地域住民に事業所の行事を知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設としての地域ボランティアの受け入れや、周辺を散歩する中で地域の方との交流を持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会を運営推進会議として開催、家族の声を聞き取り、ケアにつなげている。また、民生委員、市の職員と意見交換している。	年2回、家族会を運営推進会議と同時に行い、家族の参加を積極的に支援している。同じ法人に地域の劇団が来訪する際には、家族も利用者と一緒に見学している。家族のケアも大切であるとの考えから、できる限り家族が参加できるように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、ケアマネ連絡会などで情報発信、交換を行っている。	地域の2地区から代表者の参加があり、事業所の行事をお知らせとして回覧してくれている。町内会長の会合に出向き、相談等の話をする事もある。地域で認知症カフェを行いたいとの希望を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として研修を行い身体拘束についての情報を周知、拘束しないことを徹底している。危険箇所は階段・窓など施錠している。	全体研修を年1回行っており、リスクマネジメント委員会がある。職員には言わないが家族に暴言を吐く利用者があり、職員が家族に対するフォローを行って家族の負担を減らすように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い施設全体で情報を共有、周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで知識を確認している。現段階では該当がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面やケアマネ・管理者の説明にて理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議、家族会、面会時にて意見交換、要望をくみ取り、ケアプランにも反映している。	アポロン家族会があり、職員と家族との顔合わせがある。面会時や家族会の時に意見や要望を聞き取るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の業務の中で意見交換している。また、言いやすいような環境づくりに努めている。	年2回の個人面談や評価表を活用し、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。グループホーム会議で意見交換をした内容を介護課長がまとめ、事業所全体で話し合っている。職員の異動はあるが、ここ暫く退職した者はいない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時に自己評価、他者評価を行っている。場合によって個別にて面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修への参加。委員会への所属。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・ケアマネは交流があり意見交換しているが、現場職員はほとんどない。情報は共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネの情報を参考に、聞き取りしている。会話・表情・生活パターンを観察し、安心できる声掛け、本人に寄り添う対応をしている。 ケースカンファレンスにて情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何か変わったことがあれば、家族に相談・報告している。面会時・電話連絡時に積極的にコミュニケーションをとり、要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリング・毎月のケアカンファレンスを行い、状態を把握し、変化に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で情報を共有し話し合いながら、本人の意思を尊重し、できる事を見極め、家事などを共に行うようにしている。同じ目線になって対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にしつつ、寄り添って皆で支え合うようにしている。毎月、家人に状況報告を送付している。家族と会える機会を大切に、家族にできるだけ関わりを持っていただくよう促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時ゆっくり話ができるような場の提供を行っている。買い物などで外出するようにしている。	昔からの馴染みの美容院に行く利用者があり、定期的に外出に連れて行ってくれる家族もいる。友人や親戚の方の面会も多く、ゆっくり話ができる空間を提供するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の相性など考え、トラブル防止のため席を配慮するなどしている。利用者を巻き込んだレクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネが入院時など他事業所を利用するまでフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り個人を尊重し、個々のこだわりを大切にしている。一人一人のペースに合わせている。	利用者個々のこだわりや好みを把握し、居室の室温や入浴時の湯加減・安静時間等を調整している。ゆったりと落ち着いた時間に「昔はこうだったね」と会話の中から思いや希望を引き出す工夫もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーション(回想法など)の中で情報を把握したり、アセスメントや家族面会時に情報収集し、生活に反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送りなどで、情報共有し把握している。ケア中も把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケースカンファレンスを開催し、検討を行っている。	利用者の希望や状態の変化、職員の気づきを記録し、検討や見直しを行っている。家族からの意向は担当者会議等への来訪時や連絡帳で把握し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	よく観察し、気づいたことは申し送りに上げ、情報共有している。ケースカンファレンスで確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所が複合施設内にあるため、他部署と交流・連携をとっている。その都度のニーズに合わせた柔軟な対応をとっている(病院受診の代行など)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物・外出・食事する機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との関係を密にし、受診、往診時、主治医と情報交換している。	協力医療機関はレジャーで、往診や訪問看護も行われている。以前からのかかりつけ医へ受診する際には、原則家族が通院介助を行っている。急変時には小規模多機能の看護師に相談するなど、適切な医療を受ける体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能の看護師に情報提供し相談・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネが病院のソーシャルワーカーなどと連携・意見交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	複合施設であるということもあるが、医療連携について進展がない。そのような状況の場合は他の事業所(施設内)に移行している。	「急変時の対応についての意向確認承諾書」により、家族とは定期的に、また状態変化に応じて繰り返し意向の確認をしている。現在看取りは行っていないが、事業所での生活が困難になったり医療的措置が必要になった場合には法人の施設に移行している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、マニュアルに沿って対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。マニュアル作成し確認している。また、運営推進会議にて地域の方に報告・協力・意見交換をしている。	アポロン伊太4施設合同で、事業所の場所や状況に考慮した訓練を行っている。事業所内はオール電化で非常用電源や備蓄等が用意されており、運営推進会議で町内会への協力要請も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の気持ちを配慮した声掛け対応を行っている。入室時のノック等、プライバシーに配慮している。	利用者それぞれの得意な事や好きな事を職員全員が共有している。一人ひとりを尊重したケアを心がけ、相手の立場に立って対応するように努めている。個人情報の提供は最小限にして、個人の物品への記名にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促すよう、声掛け等に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うよう配慮している。集団生活の中のプランはあるが強要・無理強いはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなど自己にて決めていただいている。髪の毛のセットなどもお任せしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け等、職員と一緒にやっている。おやつ作りも一緒に行う機会がある。	朝食と昼食は職員の手作りで夕食は法人の厨房で調理されている。利用者はできる人ができる事を手伝い、達成感を得られるように支援している。糠漬けや梅ジュース・おやつや好みに合わせた飲料等で食を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた献立で提供している。脱水・排便状況にも注意し水分補給を行っている。食事形態も個々に対応している。施設の栄養士に食事形態について時間を作って情報を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア毎食後行っている。義歯は每晚洗浄を行っている。観察し不十分な方は職員が仕上げなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄を考え、PWCの使用、パンツ・パットの種類などを考え支援している。貼紙でトイレの位置をわかりやすくしている。	薬に頼らない自然な排便に取り組み、食物繊維やヨーグルトの摂取、夜間の腹部マッサージ等を行っている。利用者の状態や習慣に合わせたトイレでの排泄に努め、問題を抱える利用者の状態が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、補給には食物繊維入りの飲み物を提供。散歩や体操・レクリエーションなどで身体を動かすよう努めている。睡眠時間もとれているのか確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴。湯加減や順番など一人一人の希望に配慮している。音楽をかけリラックスできるような環境づくりに努めている。	全員が1番風呂で、好みの湯加減で好きな音楽を聴きながらの入浴が楽しめる。入浴後のクリームや薬・シャワーキャップの利用等、一人ひとりに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	要望に合わせて、あんかを使用したり、空調で温度調節を行ったりしている。安静時間を希望・様子に応じて設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、内服の確認を行っている。薬の詳細をカルテで確認している。主治医、看護師と連携し意見交換、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を把握したうえで、個別で作業などを行っていただいている。観察し、安全に行えるように作業量を考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を立て、ドライブ・外食などに出かけている。散歩や買い物にも行っている。年末年始など自宅に外泊する方もいる。	年2回から3回、ドライブや外食に出かけている。今年度は劇団鑑賞も楽しんだ。近隣のスーパーマーケットへの買い物や外気浴を兼ねてベランダを1周したり花を愛でながらの散歩等をしている。午前と午後の体操やレクリエーションは日常的に行われ、機能が回復した利用者もいる。	体力維持に配慮した活動や楽しみ事が積極的に行われているが、事業所外への外出を望む声もある。外出機会を増やす工夫を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある場合はこちらで買って来たり、一緒に買い物に出かけたりする。ほとんどの方がこちらで預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくよう努めている(花を飾ったり、手作りカレンダーの掲示)。トイレ・キッチンなど清潔を保つよう努めている。暖簾を掛けプライバシーに配慮している。	広々とした明るい居間は、視線が合わないように工夫がされた独自の6角テーブルやアイランドキッチン等、利用者が安心して活動するための工夫がされている。除菌水や空気清浄機を使用しており、衛生面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を工夫し、利用者同士が会話しやすいようにしている。気の合う利用者同士で席を座るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んで頂いている。自己にて作ったものや写真を自室に飾っていたいっている。	花の名前が付けられた居室には暖簾が掛けられ、プライバシー保護の役割と利用者それぞれの目印となっている。畳模様の床と明るい掃き出し窓は開放感があり、清掃も行き届いているとの家族の声があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかりやすいよう表示している。作業など危険の無いよう見守り、対応できる位置に職員がいるよう配慮している。		